

《履修上の留意事項》対面授業のみ実施

《担当者名》近藤里美

【概 要】

音楽を療法的に用いるために音楽理論を実際の音に結びつける技能を習得する科目である。

【学習目標】

これまでに学んだ音楽理論を実際の音に結びつけるための視唱力、読譜力、聴音能力を習得する。そのため以下の行動目標を設ける。

1. 初見視唱ができる。
2. 初見奏ができる。
3. リズムや拍節を理解して記譜できる。
3. 記憶したものを記譜できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	・ 授業の概要、進め方、評価方法についての説明	近藤里美
2 }	初見視唱	・ 基礎的な音程やリズムによる初見視唱 ・ 演習と自主学習	近藤里美
10			
11 }	初見視唱	・ 応用的な音程やリズムによる初見視唱 ・ 演習と自主学習	近藤里美
20			
20 }	初見視唱	・ 様々な調性の曲による初見視唱 ・ 演習と自主学習	近藤里美
28			
29 }	まとめ	・ 課題の演奏 ・ これまでの授業を振り返り、視唱の課題整理	近藤里美
30			

【評価方法】

平常点 50%、授業内に実施する課題達成確認テスト 50%

【備 考】

教科書 : 特に指定しない。授業にて必要な資料・楽譜を配布する。

参考書 : ・岡田龍三 著「ソルフェージュ(1)新曲視唱と聴音練習」 全音楽出版社 2007年
・菊池裕 著 「新総合音楽講座2 ソルフェージュ」 ヤマハミュージックメディア 1998年

その他 : ・学習形態は、個々の能力に沿った個人レッスン、小グループレッスンを基本とする。

【学習の準備】

- ・ あらかじめ配布された資料・楽譜をもとに、十分な事前練習を行うこと。
- ・ 毎回の授業後には、各自の課題点を整理し十分に復習すること。
- ・ 事前学習・事後学習に各々80分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

近藤里美（音楽療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関および介護保険施設での実務経験を活かし、音楽療法に必要なソルフェージュの技術演習を行う。